

Q 社会科ワークブックの実際の使い方を知りたい!

東京都・A先生の使い方

授業と宿題の両方で使っています。まず、何も見ずに問題を解かせ、鉛筆で答えを書かせます。次に、解けなかった問題は教科書やノートなどで調べてもよいことにし、答えは青色で書かせます。そうすることで、どこを見れば問題の解答を導き出すことができるか気づかせます。最後に、解答集で答え合わせをさせます。青色で書いたものも正しければ○です。間違えた箇所や解けなかった問題の答えは赤色で書かせます。赤色で書いた箇所が減っていけば、力がついていることになります。



宮城県・B先生の使い方

基本的には宿題にしています。1回目は、単元の学習が終わったら付属ノートに書かせて提出させます。付属ノートは薄いので点検の際に便利でした。2回目は定期テスト前にテスト範囲を宿題にしてワークブックの本誌に書かせて提出させます。2回目に解けなかった問題は、再度確認するように指導しています。



青森県・C先生の使い方

教科書の単元が終わったら、その範囲を宿題にしています。回収して点検した後、ワークブックの発展問題や資料活用問題について授業で解説します。同時に、資料集を使って関連資料のポイントも説明しています。また、ワークブックの類似問題を定期テストで出題することをあらかじめ生徒に伝え、テスト前の勉強にワークブックを活用させています。



石川県・D先生の使い方

ワークブックは自主学習用として活用しています。単元の学習が終わったら、その範囲の問題を家で解くように指示しています。ワークブックの発展問題や文章記述問題は、授業中に解き方やポイントを解説します。さらに、ワークブックにのっている重要用語については、定期的に自作の小テストを実施しています。満点の場合は満点賞を発表し、評価に組み込んでいます。



岡山県・E先生の使い方

ワークブックは宿題用として使っています。付属ノートや自分で用意したノート、ワークブック本誌を使って、くり返しやらせています。定期テスト前は一斉に回収して点検していますが、ふだんはワークの小单元ごとに学習が終わった生徒から提出させています。生徒には事前に「ノートやワークの提出」を評価することを伝えているので、意欲的な生徒は次々にノートを持ってきます。なかなか提出しない生徒には、できているところまででいいからと、こまめに声をかけるようにしています。



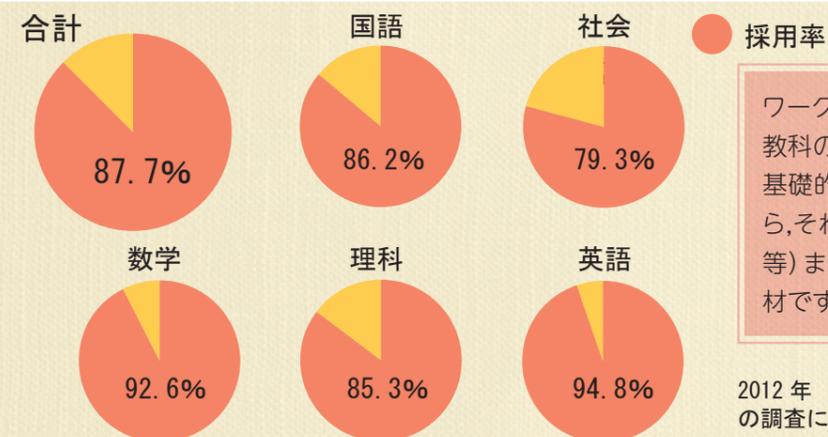
ワークブックその他の教材について
お知りになりたいことがありましたら、
教材販売店までお気軽に
お問い合わせください!

ワークブックを ご活用ください!

生徒の
可能性を引き出す
楽しい学びに

Q ワークブックとはどんな教材?

全国で約90%の先生方が採用している、指導に欠かせない教材です!



ワークブックは、教科書に沿って(または、その教科の年間の学習内容や学習順序に沿って)、基礎的・基本的な知識の確認と技能の練習から、それらを活用した学習活動(資料活用、表現等)まで、幅広く、かついいねいに編集された教材です。

Q なぜ、ワークブックはそんなに多くの先生が使っているの?

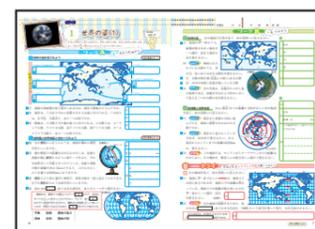
① 「年間1冊」のわかりやすさと達成感があるから

ワークブックは1年間の学習内容を1冊にまとめたものです。「この1冊を仕上げればいいんだ」というわかりやすさと、1冊やり遂げる達成感が、生徒の学習意欲の向上に役立ちます。

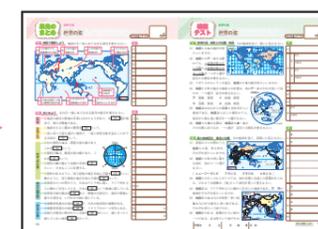


② ワーク1冊あれば、授業・家庭学習など、あらゆる場面で活用できるから

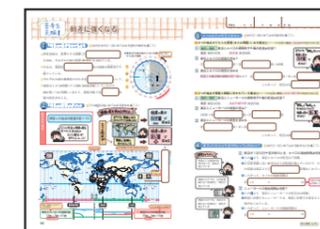
ワークブックの多くは、小单元に対応したページに加え、单元ごと、学期ごと、学年末などの区切りに対応した復習ページや、生徒共通の弱点に対応した特集ページが随所に設けられており、学習の場面に応じたさまざまな使い方が可能です。



小单元対応ページ



单元末 基本のチェック問題



特集ページ

③ 豊富な写真や図版、イラストで楽しく効果的な学習ができるから



多くのワークブックはカラー印刷で、写真や図版、イラストが豊富に掲載されています。生徒の興味を引き付け、内容の理解をより深めるのに役立ちます。

もちろん、シンプルに問題に取り組みたいというご要望にお応えする、1色または2色のワークブックも発刊されています。

さらに、こんな特徴も!

ワークブックには手作りのプリント教材では実現しにくいことが満載!
だから多くの先生に採用され続けているのです!

④ 標準的な問題内容で、もれなく・かたよりなく、使いやすく!

ワークブックは、学校教材専門の出版社が編集・制作し、全国の学校専門の販売店を通して提供しています。学校の実情に詳しく先生方の身近にいる業者が、学習指導要領や教科書の研究を土台に、全国の学校の情報を集めて編集していますので、もれなく・かたよりなく、しかも学校でいちばん使いやすい教材を提供しています。

⑤ 独自の調査・分析で適切さを確保

ワークブックを発行している出版社の多くが加盟している日本図書教材協会では、検定制度のない教材に対する「学校教材調査会」を設け、大学教授と現職の中学校教諭で構成される調査委員により、加盟出版社の教材の1ページ1ページ、1問1問の適否を分析してフィードバックし、次回の教材編集に活かす取り組みを行っています。

⑥ 1年間に必要な修得教材を安価で

ワークブックは1年間の学習の軸となる教材を、生徒一人あたり数百円で提供しています。



Q ワークブックの中身はどうなっているの?

一般的なワークブックの通常誌面は、下図のようになっています

このような誌面のページに加え、単元のまとめ問題、章末の復習問題、弱点補強特集などがありますので、どんな先生の指導スタイルにもあわせて活用していただくことができます。

単元タイトル・ねらい (要点のまとめ)	標準的なレベルの練習問題
もっとも基礎的な知識や技能の問題	知識や技能を活用する問題

Q どんな場面でどんな使い方ができるの?

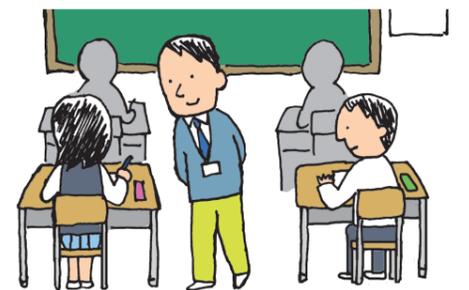
予習では…

- ①単元タイトルとねらいを読ませておく。
 - ②単元の学習内容のまとめを読ませておく。
- など

授業では…

- 全員が取り組める基本的な課題として
- ①もっとも基礎的な知識や技能の問題に取り組ませる。
- 指導が必要な生徒に対する指導をしやすくするための課題として
- ②標準的なレベルの練習問題や、知識や技能を活用する問題に取り組ませる。

など

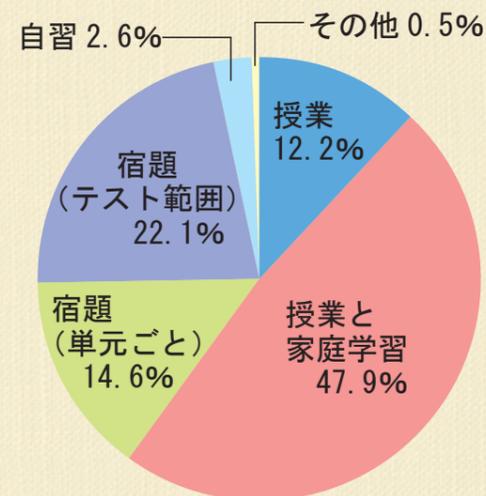


復習では…

- ①予習や授業で取り組んだ残りの部分を宿題として取り組ませる。
- ②単元末のまとめや定期テスト前の復習課題として取り組ませる。

など

ワークブックの使用場面



2012年 一般社団法人 全国図書教材協議会の調査による